新型コロナウイルスに日本で初めて挑んだ人々と映画『フロントライン』キャストが再会

2025.07.30 オリコンニュース

5年前に実際に起きた「ダイヤモンド・プリンセス号」の新型コロナウイルス集団感染を題材にた映画『フロントライン』の公開を記念して、劇中の登場人物のモデルとなった人々とキャストが撮影時以来約1年半ぶりに再会した時の映像＆写真、モデルとなった人からキャストへ宛てたメッセージが公開された。

映画『フロントライン』（公開中）登場人物たちのモデルになった人たちとキャスト陣が笑顔で再会（C）2025「フロントライン」製作委員会

2020年2月3日に横浜港に入港した豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」。乗客乗員は世界56の国・地域の3711人。入港後の健康診断と有症状者の検体採取により当時、治療法不明の未知のウイルス感染者10人が確認された。

当時、日本に大規模なウイルス対応を専門とする機関は存在せず、国は災害医療を専門とする医療ボランティア的組織のDMAT（ディーマット）に出動を要請。DMATとは、災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）を略した、医師、看護師、医療事務職で構成され、大規模災害や事故などの現場におおむね48時間以内から活動できる専門的な訓練を受けた医療チーム。地震や洪水などの災害対応のスペシャリストではあるが、未知のウイルスに対応できる経験があるわけでも、訓練を受けているわけでもなかった。それでも、目の前の「命」を救うことを最優先に対応に当たった医師や看護師たちがいた。

本作は、本作は世界規模で人類が経験した新型コロナウイルスを事実に基づく物語としてオリジナル脚本で映画化した日本で初めての作品。劇中の登場人物にはそれぞれモデルとなった人物が存在する。

主人公・結城英晴（演：小栗旬）のモデルとなった神奈川DMAT調整本部長（当時）阿

南英明医師。立松信貴（演：松坂桃李）のモデルとなった厚生労働省 医政局 保健医療技術調整官（当時）堀岡伸彦氏と厚生労働省 医政局 救急・周産期医療等対策室長（当時）永田翔氏。真田春人（演：池松壮亮）のモデルとなった浜松医科大学医学部付属病院 救急部 助教高橋善明医師。羽鳥寛子（演：森七菜）のモデルとなった元ダイヤモンド・プリンセス号フロントデスク・クルー、和田祥子氏。そして、仙道行義（演：窪塚洋介）のモデルとなった DMAT 事務局次長 近藤久禎医師。

本作の撮影時、実際に＜フロントライン＞にいた上記の人たちは、現場を訪れ、当時体験したことをキャストに伝え、リアリティを持たせるためのアドバイスをするなど、本作の制作にも協力を惜しまなかった。そして、5 月 28 日に都内で行われたジャパンプレミアに招かれ、キャストたちと撮影以来、約 1 年半ぶりの再会を果たした。

小栗は「(撮影に阿南先生が立ち会ってくれて）すごく安心しました。俺はその日阿南先生が体験したことを追体験するようにすればいいんだと思って、心強かったです」と、感謝の言葉を述べていた。

◆モデルになった方からキャストへ宛てたメッセージ

■阿南英明医師から小栗旬へ

小栗旬様

5 年前苦しくて、苦しくて、早く終わりたい、早く忘れたい…そんな思いでした。急に悲劇に見舞われた人たちを放置できない、できることはしたいと思いましたが、世界中から注目されて、現場・組織・政治・マスコミ・世間との間で信念がグラつくこともあったのは事実です。

でも、撮影現場で小栗さんの後姿を見たとき、完成した映像をみたとき、何度も涙しました。小栗旬さんが　演じてくださった絶対のヒーロー像でない「結城」は心から共感できます。本当に素晴らしい小栗 DMAT が、改めて本当の「勇気」を呼び戻してくれました。再び危機に直面した時に、大切な仲間と逃げずに最善を模索しようと思います。感謝。

小栗旬、阿南英明医師